

理窓教育会報

第36号
平成22年10月1日

東京理科大学理窓教育会

事務局 東京理科大学理窓会館4階

巻頭言 『現代に寺子屋の知恵を』

東京理科大学理窓教育会 会長 (33K)酒井 淳

「授業が難しくついていけない」と高校生の多くが感じていることが、全国高等学校PTA連合会の調査で分かった。同連合会は文部科学省の委託事業として高校生の意識や生活を調査しており、昨年秋に全国の普通・専門学科高校など45校の2年生に質問票を配布、6,119人にアンケートした。授業についていけないことがあるか尋ねたところ、「毎回」「よくある」と答えたのは男子で計26.3%、女子で計28.3%。「時々ある」も含めると、6割前後の生徒が授業の理解に苦労している。完全に理解できるとする割合は男子で10.6%、女子は5.8%にすぎなかった。

ついていけなくなった時期は高1が最多で、男子が30.3%、女子が34.3%だった。続いて中2が男子で14.4%、女子は16.3%が多かった。小学生時代を挙げた男子で計6.1%、女子で計7.5%おり、早い段階でついていけなくなったまま高校に入る子も多いことが浮き彫りになった。

生活実態では、帰宅後の勉強を「まったくしない」生徒が男子で53.0%、女子は43.9%に。勉強している生徒の平均時間は男女とも1日当たり1.6時間だった。

一方、携帯電話は男子93.0%、女子の96.4%が持ち、1日の平均使用時間(画面を見ているだけでも含む)は男子が2.8時間、女子が4.2時間に達した。

分析した京都大大学院の木原雅子准教授は「予想以上に多い。家庭での勉強習慣がない子が増えている可能性があり、高校に入っ

た途端につまずくのではないかと指摘。

「小中学校でのきめ細かい指導に加え、つまづいた子も勉強をやり直せる仕組みを地域でつくるべきだ」と話している。

教育界では現在の教育課程を理解できる生徒の割合は小学生で7割、中学生で5割、高校生では3割と言われてきたことから、今回の同連合会の調査は予想できた数値である。

木原雅子准教授の「つまづいた子も勉強をやり直せる仕組みである」江戸時代の庶民の学校である寺小屋や手習い所は日本中に4万校あった。この値は明治政府の出した数字である。しかし実際には、この数を大幅に上回ったと、最近の研究者は言っている。ここで庶民の読み書きそろばんが行われた。

この寺子屋に行っていたのが6歳から13歳くらいまで。今の小学校に当たる。寺子屋の教育は師匠さんと一人ひとりの子供と一対一の師弟関係である。当然教育は個人単位で、学年とかクラスという概念はない。「子供は千差万別だから一人の資質に合わせる」というのが当時の教育であった。教科書は挿絵に葛飾北斎、文章は滝沢馬琴、十返舎一九が書き、七五調になっている部分が多く、子どもたちが次から次へと覚えやすくできていた。

この江戸時代の寺子屋教育の知恵を現代に活かすことはできないか。

(東京女子学院中学高等学校長)

東京理科大学理窓教育会 平成22年度 総会

第1号議案 平成21年度 会務報告

1 東京理科大学理窓教育会総会

平成21年度は、「書面総会」の形式で実施した。各支部長に下記の事項の議案を送付し、意見等をアンケートの形で回答してもらった。それを本部で集計し、会報第34号に詳細を掲載して、書面で承認をもらった。

- ① 平成20年度の会務報告及び会計報告。
- ② 平成21年度の活動計画及び予算案。

2 組織の充実、強化に関して

① 各支部の活動状況

5月24日	東京支部総会	7月4日	神奈川支部総会
8月23日	千葉支部総会	9月19日	宮崎支部総会
9月26日	山梨支部総会	10月24日	秋田支部総会
11月21日	岩手支部総会	11月28日	群馬支部総会
11月29日	茨城支部総会	12月5日	埼玉支部総会
1月23日	静岡支部総会		

② 会報発行

第34号平成21年10月1日発行

第35号平成22年4月1日発行

3 大学との連携事業

① 大学「入学前学習支援」事業への協力

「入学前学習支援委員会」の計画に基づき、理窓教育会会員の添削委員が添削作業に取り組んだ。

4 その他の活動（東京支部主催）

① 管理職選考合格者・退職者等激励会（3月6日）

年度当初、各支部長にお願いして管理職の調査を行っている。この調査に基づき、東京都の22年度昇任予定者、22年度選考合格者、21年度末退職者を紹介し激励した。

② 新規採用教員予定者激励会（3月6日）

本学を卒業し全国の公私立学校に新規採用の予定者を招いて激励した。

③ 編集委員会

平成21年7月 第34号の発行について

平成22年2月 第35号の発行について

④ 指導委員会

大学の講座（教育学特講2A 教育学特講2B 教育実習事前指導）への講師を推薦した。

生涯学習センターが実施する教員採用試験対策講座[3年生対象(秋) 合宿(3月) 4年生対象(春)]へ講師を紹介した。講義内容検討会(7月)を行った。

就職課が実施する教職ガイダンス[4年生対象(4月)3年生対象(11月)]及び面接指導(2次試験対策)への講師を紹介した。

⑤ 研修委員会

東京都管理職選考第一次選考合格者への面接指導を実施した。

以上

第3号議案

平成22年度 活動計画案

(平成22年5月1日～平成23年4月30日)

1. 東京理科大学理窓教育会総会

平成22年理窓教育会総会は、「書面総会」方式とする。昨年度と同様に各支部長に議案を送付し、意見等をアンケートの形で回答してもらい、それを本部で集計し、会報第36号に詳細を掲載して、書面で承認をしてもらうこととする。

2. 各支部総会

各支部で実施する。実施状況を、会報第37号に掲載する。

3. 地区別支部長会

地区別支部長会を実施する。開催を希望する地区の副会長は開催日、開催地等を本部に申し出る。

4. 会報発行

第36号、第37号を発行する。

5. 財政の健全化に向けて

財政の健全化を期して会費納入者の増加を図る。

会報発送宛先ラベルの右下部に会費納入最終年度の数字を記載し、会員の納入年度の確認に利用しできるようにした。各支部では、本部への年会費（1名あたり1000円）の納入の呼びかけを一層進める。

6. 会員の拡大

同窓の教員に会報を送付し、会の活動を紹介し、会員の拡大を図る。

7. 大学との協力促進

① 教員希望学生への指導、採用試験等の情報提供については従来通り実施し、多くの後輩が教職に就けるよう協力する。

就職課ガイダンス、面接指導への講師派遣、生涯学習センター講座への講師派遣等の協力をする。

② 東京理科大学維持拡充資金（第二期）事業への協力。

ア. 趣旨に賛同し、その募金活動を継続推進する。

③ 大学の学生募集の協力。

ア. 学生募集広報に協力する。

イ. 第二部推薦入学の広報に協力をする。

④ 大学の推薦入学者等に対する「入学前学習支援」事業に協力する。

同委員会へテキスト作成委員を派遣する。答案添削委員を派遣する。

⑤ 近代科学資料館特別行事への講師派遣。

8. 教育管理職受験者支援(東京支部主催)

ア. 管理職受験希望者への研修の、新しいあり方の検討をする。

イ. 管理職に昇任された方々への祝意を表す会を開催する。

9. 新規採用教員予定者激励会(東京支部主催)

全国の公立、私立学校教員採用試験に合格した学生を招待し、激励会を開催する。

以上

第2号議案 平成21年度会計報告(案)

第4号議案 平成22年度予算(案)

平成21年度 会計報告書

(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

[収入の部]

科目	予算	決算	比較増減
前年度繰越金	67,702	67,702	0
納入会費	300,000	290,810	-9,190
理窓会正会員協力金	10,000	11,100	1,100
雑収入・利息	500	252	-248
合計	378,202	369,864	-8,338

[支出の部]

科目	予算	決算	比較増減
交通費	80,000	49,000	31,000
慶弔費	20,000	0	20,000
会議費	5,000	0	5,000
支部長会積立金	50,000	50,000	0
事務費	35,000	40,661	-5,661
会報印刷費	85,000	103,005	-18,005
郵送費	80,000	82,560	-2,560
記念品代	0	0	0
予備費	23,202	2,100	21,102
小計	378,202	327,326	50,876
次年度繰越金		42,538	
合計	378,202	369,864	

平成22年度 予算

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

[収入の部]

科目	予算
前年度繰越金	42,538
納入会費	290,000
理窓会正会員協力金	10,000
雑収入・利息	200
合計	342,738

[支出の部]

科目	予算
交通費	60,000
慶弔費	20,000
会議費	5,000
支部長会積立金	30,000
事務費	40,000
会報印刷費	100,000
郵送費	83,000
記念品代	0
予備費	4,738
合計	342,738

※地区別支部長会費会計 平成21年度会計報告及び平成22年度予算(案)

平成21年度 会計報告書

(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

[収入の部]

科目	予算	決算	比較増減
前年度繰越金	859,847	859,847	0
本年度会計より	50,000	50,000	0
受取利子	0	1,083	1,083
合計	909,847	910,930	1,083

[支出の部]

科目	予算	決算	比較増減
地区別支部長会費	250,000	0	250,000
予備費	660,747	0	660,747
小計	910,747	0	910,747
次年度繰越金		910,930	
合計		910,930	

平成22年度 予算

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

[収入の部]

科目	予算
前年度繰越金	910,930
本年度会計より	30,000
受取利子	1,000
合計	941,930

[支出の部]

科目	予算
地区別支部長会費	250,000
予備費	691,930
合計	941,930

(平成22.4.26作成)

会計:酒匂昭男(埼玉支部) 齋藤秀成(各担当理事) 監査:長澤智則(埼玉支部) 大竹好文(千葉支部)

監査の結果、正確適正であることを認めます。

平成22年5月6日

監査 長澤智則
大竹好文

総会 総括

平成 22 年度理窓教育会総会は、昨年度と同様「書面総会」の方式をとらせていただきました。従いまして、議案に対するアンケート形式を採り、全国支部長の皆様の意向を集約させていただきました。

◎ 集約の結果

回答のあった支部数 14 (昨年度 17)

1号議案 賛成 11 反対 0 白票 3

2号議案 賛成 9 反対 0 白票 5

3号議案 賛成 9 反対 0 白票 5

4号議案 賛成 10 反対 0 白票 4

① 議案に反対する意見は 0 です。

② 各議案に対する意見を原文のまま参考資料として、掲載してあります。

③ 以上、賛成、反対、白票および参考意見を吟味しまして、各議案のすべてをご承認いただいたことにさせていただきます。

以上、平成 22 年度総会は、各支部長等皆様のご協力により、無事終了させていただきました。皆様方のご理解とご協力に厚くお礼申しあげます。

参考資料 書面総会アンケートの集約

ご意見等のあった支部数 5

○岩手支部：1号～4号議案 賛成

3号 新採用教員，昇任者への支援等特にお願いいたします。

○秋田支部：1号～4号議案 白紙

1号 3①・・・管理職の調査を行っている。この調査に基づき、東京都の・・・を紹介し激励した。とありますが、各支部長の調査結果をどのように活用したのかが明確ではありません。「この調査に基づき」のところを具体的にお願ひします。また、報告あった支部数も教えてください。

2号 「地区別支部長会費会計」について、積み立ての目的を教えてください。

3号 3地区別支部長会 どのような会なのか良くわかりませんので教えてください。

さい。

4号 「地区別支部長会費会計」について、予備費が多いのはどのような理由か教えてください。

○埼玉支部：1号～4号議案 賛成

3号 理窓教育会の役員名簿を作成する。

4号 地区別支部長会を実施しない地区には、人数割で支部活動費を分配したらどうだろうか。

○静岡支部：1号議案 賛成 2～4号議案 白紙

2号 補足資料が必要。

3号 書面総会であるなら、決算（第2号議案）及び予算（第4号議案）に関する補足資料が必要と思えます。

4号 補足資料が必要。

○岐阜支部：1, 4号議案 賛成

2, 3号議案 白紙

2号 中部（I）地区別を開催していただくよう再々本部宛にお願いしてはいますが、実施されておりません。本部からも会長名で中部（I）副会長に依頼していただきますよう重ねてお願いします。

3号 地区別支部長会の開催を希望します。

○鳥取支部：1号～4号議案 白紙

※いただいたご意見は10月7日の定例理事会で検討をする予定です。

理窓会東京支部総会報告

(31K)奥原千里

平成22年度理窓会東京支部総会及び講演会・懇親会の報告をいたします。

【総会】5月23日(日)13:30～ 東京理科大学神楽坂校舎1号館17階記念講堂及び大会議室で開催。東京理科大学藤嶋昭学長、東京理科大学澤芳昭常務理事、理窓会山田義幸会長をはじめ常任理事や近隣の支部代表の方々に来賓として出席をいただいた。総会は松原秀成副支部長の挨拶で始まり、支部長が

都合により欠席のため、規程により松原秀成支部長が議長に選出され、議事に入り、21年度活動報告・収支決算報告と、22年度活動計画・予算案等について担当理事から説明があり、出席者(66名)全員の賛成で了承された。

【報告会】「大学の現状について」澤芳昭常務理事より、「理窓会新体制について」山田義幸会長より、「創立125周年記念事業の現況について」森野義男維持会会長より報告があった。

【講演会】(理窓教育会東京支部との共催)
講師 東京理科大学藤嶋昭学長
テーマ「良い雰囲気のもとで感動しつつ」
講師紹介:半谷精一郎副支部長

【懇親会】(理窓教育会東京支部との共催)
松原副支部長の挨拶で始まった懇親会は、藤嶋昭学長、澤芳昭常務理事、山田義幸会長、森野義男維持会会長、こうよう会東京支部安田友芝支部長、寺田英明次期支部長、埼玉支部青木秀夫支部長、千葉支部水野澄支部長、神奈川支部鈴木幹久副支部長のご臨席を賜り、そしてお祝いの言葉を頂戴し、和気あいあいの中、理窓教育会東京支部廣瀬和昭前支部長の中締めにてお開きになった。

理窓会代議員総会報告 (42K)小野具彦

組織改編後初の理窓会代議員総会が新選出代議員 130 名出席(委任状提出 23 名)により、6月20日13:00より、神楽坂校舎1号館17F記念講堂で開かれた。

山田義幸理窓会会長は前会長への謝意等、理窓会充実発展への協力依頼を挨拶し、副会長(8名)、常務委員(12名)が自己紹介を行った。

来賓挨拶は塚本桓世東京理科大学理事長。神楽坂キャンパス改修、大学会館、茨城県大子の研修施設の報告、東京理科大学藤嶋学長、諏訪東京理科大学河村学長就任の紹介、葛飾新キャンパスを加えた今後の

環境整備の紹介であった。

会長所信表明で以下に言及し、多くの会員の事業参加を呼びかけた。

「同窓生の懇親、大学発展への寄与、社会貢献の再確認と理窓会価値の共有」、「代議員総会、正副会長会、常務委員会、各種委員会」の早期軌道化報告。平成22年度課題「新体制の早期軌道化、住所把握率向上諸施策実行、会費納入率向上、大学会館運営体制策定、第5回HCD、こうよう会との連携、大学維持拡充資金への協力」。長期的課題「住所把握率と既卒者会費納入率の向上、『理窓』『理科大 today』『理想会 HP』の卒業生・支部・諸会の記事増、支部活性化、HCDの卒年幹事制、海外支部開設、卒業生への支援」。

議事は、山田会長が議長を務め、平成21年度理窓会会務報告、同収支決算並びに監査報告、平成22年度理窓会事業計画・行事日程、同理窓会予算、理窓会館建設基金他理窓会基金取崩し、名誉会長の各案について行い、活発な審議の後、すべてが承認された。

続いて、理窓会ルネサンス最終年度(田村副会長)、理窓会HCD(石神常務委員)、創立125周年記念事業募金報告及び維持拡充資金(森野維持会会長)、大学会館(森野副会長)の各報告があった。

新任教員の抱負

江戸川区立二之江中学校教諭

新井真樹

4月1日より、江戸川区立二之江中学校で勤務をはじめから早くも三週間がたちました。この三週間で今までの目標として思い描いていた教員生活に慣れてきたと同時に、想像していた教員生活との良くも悪くも違いを感じています。

まず、教員は想像以上に忙しい。授業だけでなく校務分掌や部活動、その他にもいろいろと仕事があります。右も左も分からない私にとっては配布される資料に目を

通すだけでも一苦勞で、まだまだ学校の様子や流れを把握できずにいます。

次に、生徒に想像以上に救われること。毎朝生徒と挨拶を交わすとき、授業中に真剣に取り組む姿、部活動を楽しそうにやる笑顔など、苦勞や疲れが吹き飛んで、頑張ろうという気持ちになれます。

さて、これから私は教員として、学び成長しなければならないことが沢山あります。特に学ばなくてはならないのは、教員として一番大切な授業を行うことについてです。いかに生徒に疑問を持たせその解法に気付かせるか、そのために必要となる基礎的な力をどう育成するかについて、校長先生をはじめとして指導教官の先生に助言や指導を頂きながら学んでいます。自ら疑問を持ちその解法に気付くことができるのであれば、生徒にとって授業は楽しいものにすることができると思います。これは授業に限った話ではありません。授業以外でも学校生活や部活動などあらゆる場面で、生徒自らが考え行動できるような学校にしていけたら良いと考えます。そのために、まずは目の前にいる生徒をしっかりと見つめ信頼関係を気付いていくこと、校長先生をはじめとする先輩の先生方から頂く指導をしっかりと受け止め自らの改善につなげていくことを確実にこなしていけたらと思います。そして、一日も早く一人前の教員として活躍したいと考えております。

今後とも様々な場面で先輩方のお世話になるかと存じますが、ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

江戸川区立南葛西中学校教諭 石山駿祐

4月1日より、江戸川区の最南端で、校舎からディズニールンドの花火が大きく見える葛西中学校で教員生活を始めました。昨年の今頃は教育実習を行っており、まだ採用試験の勉強をしていたと考えると、一年がとても短く感じます。

教員として働き始めて二ヶ月経ちますが、今は毎日が新しい発見の連続で、覚えることも多く、多忙な毎日を送っています。配布される資料に目を通し理解するだけでも精一杯で、日々がチャレンジといった生活を送っております。しかし、その忙しさの中に楽しみがあり、1日1日がとても短く感じます。今のひとつの楽しみは顧問である野球部の活動です。昨年10年ぶりに復活した野球部ですが、1年生が16人も入部し、みな一生懸命に練習に取り組んでいます。私自身、指導はもちろん、キャッチボールやトレーニングなどは生徒と一緒に汗をかいている毎日です。

教員としての楽しいところは、自分が一生懸命になると生徒がそれを感じてくれるところです。授業でのプリント作りに工夫を行ったり、放課後などは積極的に質問対応に当たってあげる、休み時間は職員室で休憩するのではなく廊下に出て子供たちと時間を過ごす、など生徒に対する姿勢の積み重ねが、良い関係を作る上で大切だということが分かりました。

良い授業をするためには教材研究はもちろんのこと授業に入るまでが勝負だと考えるようになりました。私の行う授業の生徒に、ノートも開かない生徒がいました。その生徒がクラブチームで野球をしていると知った私は、廊下で会った時など、自分の野球の話をしたり生徒の野球の話聞いてあげました。すると生徒はノートをしっかりと取るのはもちろん、授業の中で発言するようにもなったのです。これがたった二ヶ月でのできごとなので、やはり仕事にはやりがいを感じていきます。

公立学校ですから、いろいろな生徒がいます。一人親の生徒も予想以上に多く、問題行動がある生徒も多数います。できる生徒はもちろん、そういった生徒をどこまで良い方向に変えられるか、それが新任教員として私の目標であり抱負であります。1日1日を大切に、私は、まずは所属の3学年の一員として、彼らを立派に卒業させ

てあげられるように精一杯頑張っていく決意であります。

千葉県立佐倉高等学校教諭 上條将太郎

新任教員として勤務して早3ヶ月長いようであつたという間であつた3ヶ月最初は右も左もわからず、周りの先生方のみよう見まねで仕事をしていました。そして3ヶ月が経った今、まだ右も左もわかっていません。しかし、毎日毎日様々なことを学んでいます。まず実感したのは、先輩の先生方との大きな差です。授業に関しても生徒指導に関しても、部活動に関してもほとんどのことに関して、先輩の先生方は私よりも、より広く、より深くものごとを考えているということです。

授業に関して、進学校ということで、授業を行いやすい環境が整っています。しかし、私の授業は、一方的な授業になりがちになってしまいます。これから工夫を重ね、生徒とのコミュニケーションをとりながら、授業を展開していけるようにしていきたいです。

生徒指導に関して、落ち着いた雰囲気の高校であるので、問題はほとんど起こりません。ただ、プレッシャーや挫折感などで精神的に辛くなってしまう生徒がいるので、心のケアができるようになっていきたいです。

部活動に関して、今までに経験のないラグビー部の顧問になりました。まずは、生徒の活動に参加し、ラグビーのルールを覚え、少しずつ指導ができるようになっていきたいと思います。さらに、怪我が多いスポーツなので、怪我の対応の仕方についても学んでいきたいです。

おそらく、一人前の教員になるには、とても長い時間が掛かると思います。周りの先生方を見ていると、これまでのいろいろな経験があり、今の先生方があるのだということを、実感しています。それは、単に1年、2年では培うことのできない大きな

ものであると思います。私自身まずは現状を知り、様々な経験をし、失敗を重ねることで少しずつ一人前に近づいていきたいと思います。そして、笑顔で生徒に「大丈夫だよ」と言うことで、安心させてあげられるような教員を目指して頑張ります。

川崎市立桜本中学校教諭 李 相和

「あいさつ」がこんなにも大切であることを身をもって実感しました。

私は川崎市立桜本中学校に配属されました。初めは管理職の先生方や教職員の方々、生徒のみなさんへなど様々なスピーチがたくさんありました。そこで私は最初のあいさつだけは大きな声でしようと思っていました。すると、先輩の先生方には「教師はあいさつが1番大切だ」と声をかけていただき、生徒とも「1番元気がある先生だ」とすぐに溶け込むことができました。今でも生徒へのあいさつや打ち合わせでのあいさつなどでは大きな声ではっきりとすることを大切にしています。

また、教師になって3週間が経ちましたが、1番楽しいことは生徒との関わりです。私は生徒の話をたくさん聞くために教師になったので、これにはとても力を注いでいます。生徒の好きなことや嫌だったこと、時には「先生だけには話しておくね」と決心をして大事なことを話してくれる生徒もいます。また、授業離脱などの問題行動を起こした生徒にもただ頭ごなしに叱るのではなく、まずは「どうしたの?」と声をかけ、話を聞きます。最近では、一人っ子や両親共働きなどの影響により、生徒は話を聞いてもらえない現状にあります。私は、そのような生徒には話を聞いてくれる人が必要だと考え、常に生徒に耳を傾け、細かい変化に気付いてあげられるように努力していきます。

さらに、部活動では未経験の野球部を担当することになりました。初めは未経験の自分が野球部の生徒たちに受け入れられ

るか不安でしたが、未経験なりに一緒に参加して一緒に汗をかくことを心がけました。すると、生徒の方から声を掛けてくれて、「先生が朝、練習するなら俺も付き合うよ」と言ってくれる生徒もいました。私はそこから一緒にやることの大切さを知りました。これからも生徒たちと体でぶつかっていく覚悟です。以上が私の学校生活です。私はこれからも日々全力、日々成長を目標に頑張ります。

**宮城県黒川郡大和町立大和中学校
教諭 山田玲子**

仙台から北へ約20キロ、宮城県のほぼ中央に位置する大和町は、山あり田んぼありの自然豊かな地です。その大和町で平成22年4月、教員生活のスタートを切りました。

私は東京理科大学を9年前に卒業し、教育関係とは別の仕事に就いていました。しかし思うところがあり、3年前から理科大の科目等履修生として教職課程を履修し、昨年宮城県の教員採用試験に合格しました。

3月下旬、宮城県で教員としての新生活を始めるために、両親や友達のいる東京を去りましたが、いざ宮城で一人暮らしを始めると寂しさのあまり夜になると涙がこぼれてくることもありました。しかし4月1日に辞令をいただきその責任の重さを思ったとき、私の中に新たな決意がわいてきました。また4月2日の大和中着任の日には、校門の前で思いがけず大勢の生徒や教職員の拍手に迎えられ、人々の心の温かさに涙が溢れそうでした。

着任早々1年生の学級担任をすることになり、新年度が始まると入学式や学級開きの準備で大忙しです。周りの先生方は、戸惑っている私に対して嫌な顔1つせず親切にアドバイスをくださいます。私を早く一人前の教師に育てあげようと、教職員全体が支えてくださっていることに感謝の念でいっぱいです。ただ、地方の生活

の濃密な人間関係は、東京の淡白な環境になじんだ私には面食らうことも多く、その取捨選択は今後の課題となるかもしれません。

新1年生にとって私は新人でも何でも無い一人の教師です。「初任だから」という甘えは許されません。私の戸惑いや混乱をよそに、休み時間になると「せんせ、せんせ！」と腕をつかんでくる女子もいます。そんな幼さの残る生徒たちに、人間形成の過程で一助となるべく、教科指導、生活指導を軸として豊かにかかわっていきたいと思います。

管理職への昇格

平成22年度の人事異動で、多くの同窓生が管理職に昇任されました。心からお祝い申し上げます。

○秋田

富樫 武彦 57 理物 市立豊成中長

○宮城

金 和宏 57 理応化 石巻北高頭

柏谷 直 56 理工数 小牛田高等学園頭

菅原 光博 55 理工応生 仙台市立一中頭

○千葉

田村 清志 茂原高長

江澤 茂 土気高長

中村 一治 関宿高長

斎藤 諭 実籾高頭

小磯 均 東葛飾高頭

○埼玉

本田 昇 52 理工化 川口市川口高長

今西 善徳 59 理数 和光高頭

金井 紀夫 H1 理物 浦和工業高頭

池田 宏 62 理数 所沢おおぞら
特別支援学校頭

○神奈川

梶原 健司 58 理工数 霧が丘高頭

大塚 敏雄 55 理応数 平塚中等教育
学校頭

小山 修 56 理数 秦野曾屋高頭

佐々木 宏 54 理数 相模原養護学校頭

○東京

吉田正俊	中央区・佃中校長
宮川保之	台東区・柏葉中校長
長谷川晋也	墨田区・文花中校長
虹川豊志	江東区・第二大島中校長
橋本 智	江東区・第二砂町中校長
野澤幸美	大田区・六郷中校長
弓田 豊	中野区・第四中校長
前田光男	練馬区・谷原中校長
瀬戸口隆司	足立区・谷中中校長
木村 正	足立区・入谷南中校長
田尻隆文	葛飾区・青葉中校長
岩田 博	文京区・文京第三中副校長
工藤康男	杉並区・宮前中副校長
長澤千尋	杉並区・向陽中副校長
引地英雄	北 区・田端中副校長
栗原弘貴	練馬区・石神井南中副校長
遠藤映悟	足立区・第十三中副校長
坪井 正	江戸川区・小松川第三中副校長

○静岡

下鶴 一浩 60 理工応生 春野高頭

○岐阜

重山 武平 関高頭

○鹿児島

鎌田 英彦 51 理工教 指宿高長

以上、名簿到着の都道府県のみ掲載です。

同窓の活躍

理学・工学の危機を憂いて

東京都立工芸高等学校 統括校長
瀧上文雄 (S51 専)

昭和 51 年に理工学専攻科を終了し、東京都立高等学校教諭に奉職してから 36 年が経ちました。この間、教諭として 23 年間、教頭 4 年間、校長は 9 年目を向かえております。一貫して工業高校に勤務して来ましたが、入都当時は、校内にはエチレンプラントの設計者や電遮断材料の研究等、工業科の先生の中にトップレベルの技術者がおりました。私は、大学院を卒業しそれなりに高校レベルの実験には自信を持

っていましたが、定性分析のスペシャリストにはまいりました。ほとんどの陽イオンを化学反応で沈殿させ分析できるのです。私には、多くの沈殿が落とせませんでした。そこで、その先生の授業に生徒と一緒に授業を受けさせていただき、ノウハウを会得したものです。そのような特殊な技能とトップレベルの技術を持つ先生方のほとんど退職し、大学が当たり前の時代になって、高等学校の先生方の地位が低下し、工業高校は困難な時代を迎えております。

また、自然科学に携わったものとして、今の理工系離れは看過できない状況になっています。ノーベル賞学者の尽力により、理科教育振興法に基づき、数百億円の実習機器が昨年全国の学校に予算措置がとられましたが、どのくらいの効果があるのでしょうか。自然に親しみ遊びの中から自然への敬意を学ばなければなりません。「三つ子の魂百までも」の言葉のとおり、親の愛情や自然環境が人を作っていると考えるに至りました。今後の教育には、与える教育から学ぶ教育への転換が不可欠と思います。

しかし、学校教育の目的が「心身ともに健康で有為な社会人の育成」と考えれば、教育者として評論家ではいられません。目の前の困窮している生徒達をどのように導いていくのか、大きな視野で捉え施策に反映することが役割です。幸いにも仕事に恵まれ、多くの事をしてまいりました。

はじめに、全国のものづくりを支える工業高校生に自信と意欲を高めるため、当時、全国工業高等学校長会（全工協）に特設された工業教育理念検討・推進委員になったことです。地方は良いのですが、都市部の工業高校の凋落は厳しいものがあり、教育というより生活指導です。そのような生徒達に目標を持たせ、学ぶ意欲を高める方法として二つの工作を企画・実施いたしました。「高校生全国ものづくり競技会」と「ジュニアマイスター顕彰」です。ものづくり競技会は、企画委員として第一回大

会から実施に向けて奔走しました。県大会、ブロック大会、全国大会が今では開催され、数千人の工業高校生がチャレンジするに至っております。また、ジュニアマイスター顕彰は、資格・検定に点数をつけ、高校時代に取得した得点によりジュニアマイスターの称号を贈るものです。事前のシミュレーションでは、全国で2000名と考えておりましたが、今では7000名を超える生徒が称号を授与されており、大学のAO入試や就職等で評価されるに至っております。委員長を4年間に渡って努めさせていただき、徹夜で照合作業を他県の校長としたことが現在の隆盛に繋がっていることを考えると感慨深いものがあります。ジュニアマイスター制度は、全国の工業高校の資格取得に大きな影響を与え、制度創設以前に比べると10倍以上の資格を工業高校生達が所得しているものと考えています。さらに、「ジュニアマイスター」は、高校教育において全工協が、商号登録を取得いたしました。

その後、全工協の副理事長、総務理事、関東工業高等学校長会・会長、情報技術教育研究会、都工業教育研究会・会長、工業化学教育研究会、インテリア教育研究会、グラフィックアーツ教育研究会等の教科研究会の全国、関東、東京等の会長や副会長を務め、各教科研究会の活性化に努力をしております。

さらに、現在では、全国工業教員養成研修委員長、全工協公益法人化委員長、工業高校生人工衛星打上プロジェクト委員長等、今後の工業教育ひいてはものづくり人材の育成を長期にわたって支えるための仕組み創りに邁進しております。

富士山も裾野があるから高くそびえる事ができます。日本は資源が無く、ものづくり技術での付加価値製品を製造・輸出して、エネルギーや食料を買って成り立っている国です。大学は学問を行うところで、国民の多くが学問だけ良いのでしょうか。多様な生き方ができ多様な能力を引く出

す教育システムと多様な職があり、若い人たちが自由闊達に生きていく社会を創りたいものです。当然、そこには国の成り立ちに立脚した教育システムが無ければなりません。今後、教育を進める理窓会・教育会の若い方々の意欲と努力に期待しております。後、定年まで7ヶ月全力で頑張りますが、是非、物事にとらわれず、堂々とした教員生活を理科大卒業生にお願いいたします。

大学との連携

- 1 「教員採用試験対策講座・4年生直前コース」
東京理科大学生涯学習センターの公開講座「4年生直前コース」が4月18日からの毎日曜日6回行われ、理窓教育会の先生方15名が約60名の学生を指導しました。
- 2 工学部二部入学前集中講義
理窓教育会が工学部二部より依頼を受けて、入学前の集中講義を行いました。
高校の選択科目の多様化や、大学の推薦入試などの影響で、微分・積分や物理などの力が不十分のまま、入学してくる学生が増えています。
4月5日、6日、10日の3日間、理窓教育会の会員が約300名の新入生に二次関数から微分・積分まで、力学を中心とした物理を演習形式で講義しました。アンケートで「入学してやっつけていける自信がついた」等、好評でした。

事務局より

総務理事 (41S) 坂本 功

1 支部(支部長)との連絡窓口

入試センター 澁谷 重雄

在室(火) 10:00~16:00

TEL 03-5228-8092

FAX 03-5228-8093

メール shibuya_shigeo@admin.tus.ac.jp

2 一般の連絡窓口

①書面での連絡先

〒162-0852 新宿区神楽坂2-13-1
理窓会館4階 理窓会事務所内
東京理科大学理窓教育会 宛

②急ぎの連絡先

教職課程指導室 坂本功（総務理事）
TEL 03-3260-4271 内線 2780
FAX 03-3260-1776
メール isoskmt@rs.kagu.tus.ac.jp

3 理窓教育会ホームページ

「理窓教育会」と入力すると、開きます。
「東京理科大学理窓会」のホームページの
中に「理窓教育会」のものがああります。
ホームページアドレスは次の通りです。

<http://risoukai.rikadai.jp/>

4 会費納入状況

※平成22年度は6月末日現在

理窓教育会 支部別会費納入口数

県名	19年度	20年度	21年度	22年度	県名	19年度	20年度	21年度	22年度
北海道	1				滋賀				
青森	1	1	1	1	京都				
岩手	15	7	3	2	大阪	2	2	2	2
宮城	6	12	3	11	兵庫	14	6		2
秋田	36	15	17		奈良				
山形		1			和歌山				
福島					鳥取	4	3	3	
茨城	21	25	2	3	島根				
栃木	1				岡山	1			
群馬	1	1	1		広島	53	42	4	6
埼玉	38	42	37	13	山口	2	4	2	2
千葉	34	3	34	1	徳島				
東京	56	54	50	30	香川	2	1	1	1
神奈川	35	33	8	10	愛媛				
山梨	2	1		1	高知	1		2	1
長野					福岡	4	3	1	1
静岡	22	22	18	4	佐賀	1			
愛知	8	1	1	2	長崎	2	1	1	
岐阜	1	1	1		熊本				
三重	2			2	大分	2			
新潟	2	1	1	1	宮崎				
富山	10	9.5	9		鹿児島	1	1	1	1
石川					沖縄				
福井					小計	89	63	17	16
小計	292	229.5	186	81	合計	381	292.5	203	97